

広域協議会等の実施状況

資料2-3

協議会・連絡会	生息状況・被害状況	会議運営	連携対策
東北カワウ 広域協議会	モニタリング体制が整いつつあるが、調査時期を統一して全県で調査が実施された年がないため、東北全域の個体数の経年変化を分析できるほどにはデータは蓄積できていない。	・モニタリングの推進、調査方法の統一について議論。	・特になし
関東カワウ 広域協議会	個体数の少ないものも含め、ねぐら・コロニーが各地に多数存在している。個体数は、平衡状態が続いている。	・幹事県が毎年の会議の進行を担い、各県からの要望を取って情報交換。 ・必要に応じて広域協議会では講師等を招いて講演会を開催 ・今年度の開催については調整中。	・毎年春に一斉追い払いを実施
中部近畿カワウ 広域協議会	個体数調整が複数県で進められており、個体数は減少が続いている。ただし、個体数の減少に伴ない、捕獲効率の低下が起きていると思われ、近年の捕獲個体数は頭打ちになっている。	・府県間連携の推進について議論が進む。 ・勉強会(本省業務)を令和元年度に広域協議会に合わせて開催。 事前に現状・課題・担当者の私見を聴取し7テーマを決め、テーマ毎に関連のある府県等によるグループに分かれて議論。府県間で共有する問題点を明確にし連携した対策への足がかりへと進展した。	・特になし
中国四国カワウ 広域協議会	モニタリング体制が整いつつあり、冬期は全県で調査が実施されているが、春期と夏期は調査が実施できていない県が多い。かつては冬に個体数が多い傾向があったが、春や夏の個体数が増加した。近年のデータからは個体数の急激な増加は見られない。	・モニタリングの推進が進められ、管理計画の改定議論。 ・中海部会が設置され山陰地方の連携が進む。	・中海部会にて、コロニーと採食地対策が進められている
九州地区カワウ 連絡会	九州地区における捕獲数（主に有害捕獲）が増加していることから、カワウの生息数は増加している可能性がある。また、被害意識が高まりつつあることも考えられる。九州全体としてのカワウの生息状況は十分に把握できていないが、中には1000羽を超えるねぐらの情報もある。	・今年度3年ぶりに連絡会を開催。 ・モニタリングの未実施県では、調査の実施を検討開始。	・特になし